

聞くという力は、次の五つに分けられます。

「聞こえる」「聞く」「聴く」「傾聴」「訊く」です。

「聞こえる」は、聞く意志がなくて、ただ耳に入ってくること

「聞く」は、聞く意志をもって聞くこと

「聴く」は、聞く意志をもち、注意して聞くこと

「傾聴」は、聞く意志をもち、注意を集中して聞くこと

「訊く」は、自分の聞きたい意志を相手にまで及ぼし、答えを求めて積極的に聞き出すこと

という意味です。

この五つの聞くは発達とともに獲得されていきます。

新生児期の子どもは、大きな音に反応し、母子間でコミュニケーションが成立していることから、「聞く」というレベルに達しているといわれます。

乳幼児期に「聴く」「傾聴」「訊く」を獲得していくといわれます。

「聴く」というレベルでは、母親の声が聞こえてくると、探し求める行動をします。

「傾聴」というレベルでは、ことばの模倣をしたり、ことばによる指示に従い行動をします。

そして、「訊く」というレベルでは、「これ、なあに？」と質問する行動をします。

やがて子どもは「聞く」という力を基礎にして、「話す」「書く」といった行動を生み出します。

聞くことで、ことばを発達させていくのです。

また、人は、この五つの聞く力を周囲の状況や、必要に応じてうまく使い分けて生活していきます。

(学苑社の聴覚障害の診断と指導を参考にまとめました。)

ところが、子どもの1日の生活をふりかえてみると、朝、登校中に「おはよう」と声をかけたとき、眠そうな目をこちらに向けず。

しかし、「おはよう」と返ってこない子どもがいます。

目では反応していますが、年齢相応のコミュニケーションが成立していません。

この子にとって「おはよう」というあいさつは、ただ音として「聞こえる」ということなのでしょうか？

前の日、夜遅くまでおきていたのでしょうか？

長い休みが終わり、園や学校が始まったばかりで、集団生活のリズムが取り戻せないのでしょうか？

寝坊して朝ご飯を食べないで、出てきたのでしょうか？

家を出るとき、おうちの人におこられたのでしょうか？

出さないといけない宿題ができなかったのでしょうか？

友だちとうまくいっていないのでしょうか？

授業中、先生は子どもにいくつかの指示を出しますが、指示どおりの行動ができない子がいます。

指示が多すぎて、おぼえられなかったのでしょうか？

指示を理解できなかののでしょうか？

休み時間に友だちとけんかでもしたのでしょうか？

授業の内容がわからなくて、先生の指示を聞きもらったのでしょうか？